

全日本郷土芸能協会 地域伝統芸能特別功労賞 桂川千賀龍先生受賞記念発表会



東京公演での表彰式
(平成29年7月)



三役修業塾発表会義士祭 (平成27年12月)

平成29年

9月17日(日)

13時開演

演目

- 一、壽式三番叟
長浜 三役修業塾
- 二、仮名手本忠臣蔵七段目 一力茶屋の段
長浜 三役修業塾
- 三、生写朝顔日記 宿屋より川場まで
中津川義太夫教室
- 四、恋飛脚大和往来 新口村
長浜 三役修業塾 振付部門
- 五、傾城阿波の鳴門 巡礼歌の段
知立市義太夫会 中新町人形連
- 六、絵本太功記 十段目 尼ヶ崎の段
長浜 三役修業塾

会場

長浜市曳山博物館
伝承スタジオ

入場料

無料
申し込み不要

千賀龍先生プロフィール

大正11年岐阜県出身。名古屋市在住。幼少より地元の歌舞伎に親しみ、名古屋市に移住後、豊澤団龍氏に師事。愛知県知立市の山車からくりなどに出演し、その後、岐阜県、愛知県、石川県などを中心に人形浄瑠璃、素人歌舞伎などに出演する。

歌舞伎の義太夫節については、豊澤重松氏から指導を受ける。平成2年、長浜市子供歌舞伎伝承委員会三役修業塾の講師として指導を開始。松竹大歌舞伎に2人の三味線奏者を輩出し、長浜曳山祭にも塾生が出演するなど、大きな功績をあげている。現在では、長浜市のほか地元名古屋市、知立市、中津川市などで義太夫、三味線の指導にあたっている。



東京公演での表彰式にて(平成29年7月)

三役修業塾

(滋賀県長浜市)

長浜曳山祭で演じられる子ども狂言(歌舞伎)は、毎年様々な演目が長濱八幡宮に奉納される。長浜では、曳山狂言の演技指導者を振付、浄瑠璃(義太夫)語りを太夫と呼び、三味線を含め三役という。

かつて三役は、滋賀県外、日本各地から招聘していたが、高齢化にともない地元での養成の必要性が議論された。平成2年、「ふるさと創生事業」を活用し、設立した「子ども歌舞伎伝承基金」を元に、三役修業塾を開講した。義太夫と三味線部門に加え、平成28年には振付部門を開講。曳山祭に欠くことのできない子ども歌舞伎の演技指導(振付)と義太夫語り、三味線の奏者の育成を行っている。

知立市義太夫会

中新町人形連

(愛知県知立市)

江戸時代から引き継いできた知立山車文楽は「知立まつり」の山車の引き出し舞台の上で上演する人形浄瑠璃芝居で、日本で唯一のものである。国の重要無形民俗文化財に指定され、ユネスコ無形文化遺産にも登録された。今回は、4団体のうち「中新町人形連」と千賀龍師匠の指導を受ける「知立市義太夫会」が出演する。

中津川義太夫教室

(岐阜県中津川市)

岐阜県では、古くより地歌舞伎、文楽が盛んに行われている。中でも、東農地域には、地元で受け継がれる地歌舞伎保存会が15団体、また中津川市には岐阜県無形民俗文化財に指定される恵那文楽があり、各地域で今もなお精力的に取組み、活躍する。

伝統芸能がこれだけ盛んな地域だが、地元には太夫・三味線がなく「中津川から太夫・三味線をつくりたい」との思いで、平成27年に教室を開講。講師は、中津川で何十年もの間、太夫として活躍された豊澤千賀龍師匠門下、竹本団勇師匠により現在月1回教室を行っている。舞台全般を熟知する団勇師匠を講師に迎え、義太夫から歌舞伎、文楽に関することすべてを学ぶことができる。

一、壽式三番叟

太夫 岸田健太
三味線 中川太吾
山田蒼生
千與龍

二、仮名手本忠臣蔵 七段目 一力茶屋の段

太夫 大星由良之助 甚
お軽 美帆賀
寺岡平右衛門 賀桐
三味線 湊祝

三、生写朝顔日記 宿屋より川場まで

太夫 伊藤麻里
三味線 龍太

四、恋飛脚大和往来 新口村

《振付部門参助出演》
忠兵衛 岩井小紫八 梅川山本桂緒莉
指導 岩井小紫
太夫 賀桐
三味線 賀祝

(幕間)

五、傾城阿波の鳴門 巡礼歌の段

《知立市義太夫会》
太夫 おゆみ千賀龍 おつる 三千賀
三味線 龍美、千春

《中新町人形連》

おゆみ頭 清水昌也 左 藤井秀晴 足 滝川弥絵
おつる頭 葵建明 左 榊原宏 足 田中孝明
後見 三宅守人、小嶋徳雄、林健一

六、絵本太功記 十段目 尼ヶ崎の段

太夫 武智光秀 賀桐
真柴久吉
武智十次郎 壽
初菊 利賀
操 甚
龍一
三味線 賀桜、楓賀、湊祝、龍三